

『泥はとれた 地面は水でドロドロだ!』 5歳児 6月 伏見こども園

スーッと流れていった!



わあ、泥が板についた!

エピソード

AくんとBくんが、イーゼルにプラスチック板を立てかけたコースに水を流すと、じわじわと地面に広がり、「色が変わっていく」と、乾いた地面がぬかるんでいく様子に驚いていました。

遊んでいく中でどんどん面白さを感じていった2人。さらに水を流したり、近くにあったカプセル容器やテニスボールも転がしたりしてみます。Aくん「水と一緒に速く転がった」Bくん「テニスボールはゴロゴロ転がったよ。あっ、ボールに泥がついちゃった」と、転がる様子やボールに泥がついたことに気付き、友達や保育者に伝えます。今度はさっき転がしたテニスボールをもう一度転がすと、「わあ、泥が板についた」と、テニスボールについていた泥がプラスチック板につきながら転がりました。Bくんは面白さを感じ、Aくんは「今度は水で泥を流してみよう」と、考えました。2人はそれぞれにペットボトルで水を流すと泥は流れていき、Bくん「きれいになった」、Aくん「泥はとれた。地面は水でドロドロだ」と、水や泥の様子を伝えながら遊んでいました。

子どもの育ちや学び

- ・様々な用具を使って考えながら、コースをつくって遊んでいます。
- ・流れた水が乾いた地面に広がり、色が変わったり、ぬかるんだりしていく様子に驚いています。
- ・コースに水を流す、カプセル容器やテニスボールを転がすなど、いろいろな方法で遊んでいます。
- ・転がしたものの速さや転がる音、ボールやプラスチック板に泥がついたことに気付いています。また、プラスチック板についた泥を水で流すことを思い付き、試しています。その中で気付いたことを友達に伝えています。

保育者の思い

- ・用具をつなげたり、組み合わせたりして遊ぶ姿がありました。さらに、様々な用具を使って遊べたらと考え、遊び場の近くにイーゼルやプラスチック板を用意しました。
- ・子ども達のつぶやきを聞いて受けとめるようにしたり、子ども同士のつながりを大切に見守ったりしました。
- ・一つの遊びの中でもコースをつくる、水を流す、ものを転がすなど、いろいろなことを試して遊んでいます。子ども達の試す姿や友達や保育者に気付きを伝える姿、新たな考えを生み出す力を十分に認めていきたいと思っています。

家庭だったら・・・

子ども達の身近には遊びに使える、やってみたいと思うものや事柄があります。ご家庭でも子どもの気持ちに寄り添いながら、身近なものに触れて一緒に遊んでみてください。そして、つぶやきを聞いたり、思いを受けとめたりすることで、子どもとお家の方との心のつながりを感じてください。